〇名言 4分Ver.

相「成功とは、吹き荒れる嵐を耐え抜いた人間だけが、味わえるものである」
戸「急にどうした」
相「成功とは、吹き荒れる嵐を耐え抜いた人間だけが、味わえるものである」
戸「何言ってんだよ」
相「もう1回言おうか？」
戸「大丈夫です。2回も聞いてるんで」
相「あ、そう」
戸「なんなの急に。偉人の名言みたいなさ」
相「これは、ある人が言ってた名言なの」
戸「あ、やっぱ名言なんだ。誰が言ってたの？」
相「1回考えてみてよ」
戸「え？誰だろ？福沢諭吉とか？」
相「全然違います」
戸「違うかあ…。じゃあスティーブ・ジョブズとか」
相「残念、違います」
戸「くっそー。でも本当に分かんないわ。さっきの名言言ったの誰なの？」
相「これはね…」
戸「うん」
相「この前戸田さんが寝言で言ってた」
戸「はっず！やば！しんどいなこれ。え、私！？」
相「うん、あなた」
戸「マジかよ…。激イタじゃん…。“吹き荒れる嵐”が恥ずかしいわ」
相「いや戸田さんは激イタだよ」
戸「そうなの！？共通認識！？」
相「うん、知らなかったの？てかさっきの名言はどういう意味？」
戸「え…？分からん…」
相「自分で言っといて？」
戸「そうなんだけどさ…。でも寝言なんて覚えてる訳ないんだからさ」
相「いや普通は覚えてるでしょ」
戸「マジで？じゃあじゃあ今まで自分がどんな寝言言ってたか全部覚えてるんだ？」
相「いや私は1回も言ったことないから」
戸「それ覚えてないだけだろ。何言ってんだ」
相「いや、寝言言ったら覚えてるって。でも言った記憶がないんだから言ってないんだって」
戸「じゃあ私だってさっきのやつ言った記憶ないから言ってないよ」
相「いや、戸田さんは言った」
戸「なんで私はダメなんだよ。それはずりいって」
相「じゃあ戸田さんは私が寝言言ってるの聞いたことあるの？」
戸「それはないんだけど…」
相「でしょ？じゃあ寝言言ってるって決めつけられる筋合いないよ」

戸「そんな決めつけって言うか…」
相「そうやってすぐ決めつけてくる事が、刃になって私に突き刺さるんだよ」
戸「え？」
相「もう決めつけの刃だよ」
戸「何だお前。全然上手く無えからな今の。てか寝言はみんな言うもんだから貴方も言ってると思うよ？」
相「絶対言ってないね」
戸「じゃあ確認するから今度私の前で寝てくれよ」
相「え、マジでキモいね」
戸「は？」
相「というか戸田さんの前で寝るなんてプライドが許さないから」
戸「どういう事なんだよ。疲れてたら人前で寝ちゃう事だってあるだろ」
相「でも1位だから」
戸「え？」
相「戸田さんの知り合い100人に聞いた、寝顔を見せたくない人ランキング1位が戸田さんだから」
戸「いつ聞いたんだよそのランキング。そんなランキング無いだろ」
相「データで出てるから」
戸「まず私に知り合いが100人も居ません！」
相「え？」
戸「言わすなよこんな事。情けない。100人も知り合いが居ないからそのランキングはダウトです」
相「Let me show 神様もハマるほどの大嘘を oh」
戸「髭男のノーダウト歌うなよ。今関係ないだろ」
相「でもノーダウトだから」
戸「黙れよ本当に」
相「大体寝言言ってるか確認するからって言われて寝られる訳ないじゃん」
戸「大丈夫だよ。きちんと寝られるまでずっと待ってるから」
相「怖すぎるって。目の前にこんな人いたら無理だよ」
戸「じゃあ周りの仲間達に聞いて回るわ」
相「何を？」
戸「貴方が普段寝言言ってないか」
相「目的を教えて？そんなん聞いてどうするのよ。じゃあ聞くのね？」← ここでコントイン
戸「先輩すいませんあいつって寝言言ってました？」
相「ああ、言ってるの聞いたことあるよ」
戸「へえ〜、言ってたんだあ〜」
相「何なのそれ(と言いながら左手で戸田の右胸あたりを押す)。本当にくだらない」
戸「そっちが言ってないって言い張るからだろ。じゃあもう貴方の事は良いわ」
相「そうだよ。てか戸田さんさっきの以外にも寝言めちゃくちゃ言ってたから」
戸「マジで！？あんな感じのやつ？もう聞きたくないんだけど」
相「例えば、“上の世代の引退を待つより、自分達で追い抜いたほうがかっこいいよな”とか」
戸「おう…」
相「“どんな茨の道だと思っても、どうせいつかは枯れ木になるものさ”とか」
戸「う、うん…」

相「“夢は全部叶えてこそのカリスマなんだよ”とか」
戸「恥ずかしすぎるって。本当にそんなこと言ってた！？」
相「全部言ってた」
戸「マジかよ…。え…」
相「どんな茨の道だと思っても、どうせいつかは枯れ木になるものさ…？どういう意味？」
戸「分かんねえよこんなの。何言ってんだ私は」
相「あとはねえ、“やられたらやり返す。倍返しだ！”」
戸「半沢直樹じゃねえか。人のやつじゃん」
相「パロディも出来る」
戸「パロディも出来るってどういうことだよ。褒められてんのそれ？」
相「これからも名言製造機として頑張ってください」
戸「変なあだ名付けんな」

〇うどん屋 4分Ver.

相「私、うどん以外は麺類だって認めてないんですよね」
戸「なんだこいつ」
相「だから将来うどん屋を開こうと思ってるのよ」
戸「文章が繋がってないよ？」
相「でもうどんってめっちゃ美味しくない！？」
戸「まあすごく美味しいけどね」
相「でしょ？うーっ、どんっ！って感じだよね！」
戸「ごめん全然分かんない」
相「将来世界一のウドニストになるために予行演習しておきたいんだ」
戸「ウドニストなんて言葉無いよ。まあでもじゃあやってみようか」
相「ほふく前進しながらきてね」
戸「普通に行くわ。ガラガラガラ」
相「いらっしゃい！すいません店やってますか？」
戸「知らねえよ。こっちが聞きたいんですよ」
相「あ、やってました。午後24時なんで」
戸「昼の12時を午後24時って言わないで紛らわしいから」
相「そうなんですか？」
戸「24時間時計は午後には適用されないから」
相「あー、1か。そっかそっか。うんうん。ふふっ。1名様ですね」
戸「何が面白いんですか。いいでしょ別に1人でも」
相「ではこちらのテーブルへどうぞ」
戸「ありがとうございます」
相「ご注文は何月見うどんですか？」
戸「何月見うどんですか！？」
相「うち月見うどん専門店なんですよね」

戸「月見うどん専門店！？」
相「メニューはですね、月見うどん、肉月見うどん、天ぷら月見うどん、カレー月見うどんなどがあります」
戸「別にわざわざ卵乗せなくていいけどな。じゃあ普通の月見で」
相「かしこまりました。お客さん、うち造にこだわりがあって、客席から厨房内が丸見えになってるんです。凄いでしょ」
戸「凄いだけなんだよ。わー！厨房内見ながら食べられる嬉しい！とはならないのよ」
相「あっ、しまった」
戸「どうしたんです？」
相「ごめんね〜。うどん捏ねてる途中だったよ〜。今から作るからね〜」
戸「オカンか。客商売舐めんな。今時間あるからいいけど」
相「今から踏んでいくからね。これ見られるなんて光栄でしょ？」
戸「自分で言うな。確かにラッキーだなとは思ったけど」
相「よし。(生地を置く。その上に寝転がってゴロゴロ)」
戸「体で踏んでる！ちょ汚いですよ！ねえ！城本クリニックか」
相「大丈夫です。うち厨房毎日掃除してて綺麗なんで」
戸「そういう問題じゃない。ビジュアルが嫌なんだよ」
相「コシが強くなりますようにって願いを込めて腰で踏んでます (言いながら立ち上がる)」
戸「願掛けキモっ」
相「じゃあ茹でますね (ひと玉掴んで鍋に入れる)」
戸「あれ、今踏んでたやつは？」
相「これ今日の夜の分です」
戸「じゃあ後でやってよ。なんで先茹でてくれないんですか」
相「先終わらせておこうと思って」
戸「その姿勢は大事だけど」
相「お待たせしました。こちら月見うどんです」
戸「ありがとうございます」
相「では下げますね」
戸「なんで下げるんですか！」
相「お会計800円です」
戸「なんで見ただけで金払わなきゃいけないんだよ。美術館か」
相「美術館です」
戸「美術館じゃないでしょ！あのね、美術館は1回金払ったらたくさんの作品見られるの。もしそうだとしたらせめて10種類くらいうどん見せてから金取れよ」
相「じゃあ10種類作るので見ていただきますね」
戸「ひとつくらい食べさせて。食材無駄になって店が損するだけだぞ？」
相「大丈夫です。全部私が食べますので」
戸「賄い作っただけじゃねえか。そんなに食べたら太っちゃうよ？」
相「平気です。令和のギャル曽根って言われてるんで」
戸「まだ生きてんだよギャル曽根さんはよ。令和のギャル曽根はギャル曽根だから」
相「じゃあ食べていいですよ」

戸「なんで食べられること納得してないんだよ」
相「食べたかったなあ…」
戸「欲望に忠実すぎるだろ」
相「じゃあ食べるならこれ持ってください」
戸「え？え？」
相「いいから」
戸「え？分かりました…」
相「ついてきてください」
戸「え？何？どこいくの？え？」

ーー両者歩く

相「(門を引く動作)」
戸「なんなんすかこれ」
相「着きました。屋外席です」
戸「屋外席！？なんで！？」
相「こちらの席どうぞ」
戸「あ、どうも」
相「せっかく月見うどん頼んだんだから、月を見ながら食べて欲しくて」
戸「今昼の12時なんですよね！？めちゃくちゃ太陽出てますけど」
相「これが本当の太陽見うどんですね」
戸「どれが本当の！？」
相「じゃあ戻りますか」
戸「え？別にもうここでいいですよ」
相「実はここうちの敷地じゃないんですよ」
戸「所有地じゃないんだ！？」
相「見てくださいほら。あそこのおじさんめちゃめちゃ怒ってます」
戸「本当だすげえ睨まれてる！」
相「(走る動作) ほら謝ってください」
戸「なんで私が！！すいませんすぐ出ますんで」

ーー両者走る

相「(門を押す動作)」
戸「はあ、はあ、疲れた…」
相「でも走って疲れたから美味しく食べられますよね」
戸「うるせえよ」